令和７年度第１回京丹後市新経済戦略推進会議　会議録

１　開催日時
令和７年７月 18 日（金）14:35～16:30

２　開催場所
京丹後市役所峰山庁舎 205 会議室

３　出席者等
■出席者　行待佳平会長、久米一郎副会長、山崎俊巳委員、錦織隆委員、河野修己委員、奥野美奈子委員、浅井智美委員、田茂井勇人委員、尾﨑至弘委員、福岡崇委員、福島和彦委員、田中智子委員、宮腰英明委員、森下裕之委員、足立眸委員、八隅孝治委員、中山泰(京丹後市長)、椋平智博（オブザーバー)、白江喜之(オブザーバー)、笠原和史(オブザーバー)

■欠席者　松田智生委員、小野寺由美子委員、

■事務局出席者
京丹後市
商工観光部　高橋尚義
商工観光部商工振興課　金木美由紀、田中勝茂、松本隆明

４　内容
（１）あいさつ
（２）京丹後市新経済戦略について
（３）その他

５　公開又は非公開の別
公開

６　傍聴者の人数
０人

７　要旨
（１）あいさつ
（市長あいさつ）
○中山市長　皆さんこんにちは。ご紹介いただきました京丹後市の中山でございます。今日は本年度の第１回新経済戦略推進会議ということで、お忙しい中、お集まりをいただきまして本当にありがとうございます。また今日は遠路、関経連の方から久米常務理事様、さらには東京の方からも元総務省大臣官房総括審

議官の山崎様もお見えでありましてありがとうございます。またオンラインの方も、多くの皆様に今日は参加していただいております。ありがとうございます。

さてこの会議も昨年１２月に第１回を開催させていただいて、以来２回開催させていただいているわけですけども、合併して本市が誕生して、20 年の節目を超えてきて、今後、新市として経済をどういう形で、発展の戦略を持っていくのかということについて、ぜひこの機会に展望いただき構想としてまとめていきたいということで、この間、いろんな議論をいろんな観点からしていただいたところでございます。本当にありがとうございます。

その上で起承転結じゃないわけですけども、そろそろ結に向けてまとめも意識しながら議論していかないといけないなというふうに思うわけでありますけども、今、もうご案内の通り参議院選挙の終盤真っ只中ということだと思います。その中で各党とも、公約の中にいろんな形で挙げられているように、現状諸物価の高騰、こういったものが、日本全体の中で広く広がってきていることに対してどう対応していくのか。さらにはこれにトランプ関税への課題なんかも加わってきていて、日本全体でどう、中長期的な経済の出口を展望していくのかということについてもなかなか見えづらいような、この状況の中かと思うんですけど、そんな中で、そんな日本の状況を背負う中で、我々京丹後にあっても、どのような形で戦略を中長期的に描いていくのかということについて、この間来、我々のご報告もさせていただきましたように、今交流の、特にとりわけ経済交流の大動脈になってきます山陰近畿自動車道が、全線、兵庫県域まで具体的なルート決定の手続きに入ってきてるということで、全線の完成ということを具体的に展望しながらまちづくり全体を構想していける時代の入口に今入ってきてるということでありますので、この山陰近畿自動車道を交流の人流物流の大動脈であります、これをどう生かしていくのかというような観点を大切にしていただきながら、同時にＤＸの時代でもありますし、また今年は万博がにぎやかに開催されているということで、こういったことを弾みにしてどうつなげていくかということを交流の背骨に持ちながら、同時に京丹後は様々な地域資源、産業資源を多彩に持つ地域でありますので、こういった特色をどう交流にうまく経済的に乗せていきながら、そして魅力的な、また豊かな多彩な付加価値、経済的な付加価値を、実業としてどう実現していくのかというようなことを中心の１つにしながら、いろんなご議論を引き続き重ねていただきたいと思っております。

我々の地域、京丹後は日本や世界に通じる、魅力の原石をたくさん持つ地域だというふうに思っておりますので、ぜひ皆様のお力をいただきながら、そういった展望を描いていって、そして、住民の皆さん、また内外の皆さんとそれを共有しながらまちづくり進めていきたいというふうに思っておりますので、今日もお世話になりますがどうぞよろしくお願い申し上げます。

（会長あいさつ）

○会長　先日、京都府副知事の講演で観光消費額というものを出されておりまし

て、京都市は、観光消費額は１年間で２兆円あると。京都市以外は、1,500 億円ということで、１割以下が京都市以外の観光消費額だということで、京都市以外の観光資源としては、頑張っているんですけどなかなか、厳しい状態かなと。後で質問したんですけども、京都市に対してどれだけ投資されているのかなと、その投資額幾らですかと言ったら返答がなかったんですけど、投資額に対して、消費額がどのぐらいあるのかなというのもまたお聞きしたいなというふうに思っております。皆さんのご意見を、今日はたっぷりお聞きしたいと思いますので、このあたりで一言だけご挨拶にかえさせていただきます。

（２）京丹後市新経済戦略について

・事務局から資料１、資料２及び資料３に基づき、京丹後市新経済戦略についての説明。

（質疑応答及び意見）

〇委員　資料１の４ページについて、主な数値目標、どういうロジックでこういうふうに決められたんでしょうか。持続的な経済成長を図るために、この目標数値がどう適切なのかっていうのがちょっと知りたいなと思っているのと、もし現状あんまり何もやらなかった場合、令和１０年度にはどんなふうになっていてこれを達成するために今どんなところにギャップがあるのかっていうのを、どんなふうにとらえられてるかもちょっとお聞きしたいです。

〇事務局　事業所数と従業者数の数値目標ということにつきましては、京丹後市の特徴でもあります事業所数の多さですとか、あと、産業の活発化を指標として見るということからすると、従業者数の数というのは、1つあるのかなというふうに考えておりまして、そこを少なくとも現状維持していきたいということで、記載しているということでございます。

それから市内総生産につきましては、これ総合計画におきまして、工業製品出荷額等につきましても記載しているんですけれども、工業生産出荷額とか年間商品販売額などが、国の伸び率と比較して京丹後市の伸び率が低いということが、今までの傾向から見てとれるということになっておりまして、これを少なくとも国と同じ程度の伸び率までに伸ばしていけるよう考えていきたいということで、総合計画でもそういった考え方で目標を設定しておりまして、そこに合わせているというところです。

〇委員　ありがとうございます。事業所数が多いという話で最初の会議であったとおり、織物の個人事業主さんがすごい多くて、ずっと減ってきてる、それはご高齢のこともあって減ってきてる中で、事業者数の維持を目標にするっていうのは、本当にそれでいいのかなっていうのはちょっと疑問に思ってます。

もし織物事業者さんの個人事業主さんと同じぐらいの量を新しく、例えば、若者チャレンジですとか、共創のプロジェクトによって生み出すとしたらかなり

の量になるなあと思って、それはどうなんだろうなっていうのがちょっと気になったりもしていたのと、この目標達成した姿が具体的にどういう状態で、それをどういうふうに測っていくのかっていうのは、何かもうちょっといろんな数値があるんじゃないかなというのはちょっと思って、いろいろ皆さんの委員の方のご意見も伺いたいなと思いました。

○委員　資料の①、委員から出た意見課題の整理というところで、産業の高付加価値化、市場拡大開拓というのが出ておりまして、いっぱい書いてあるんですが、どうもこれ見ていると何か、どのようにやるのかばかり出ているんですよね。一体何をやりたいのか、それがよく見えない。

あと将来像・基本理念というのがあって、皆さんからいろいろと出てきたものをまとめたらこういう基本理念になったのかなというふうに書いてあるんですが、本当はそうじゃなくて、これが一番先にあるべきだろうなと。

何かをやらなきゃいけないと、それをするために何をするかというと実は、先ほどおっしゃった、産業連関表から見る京丹後市産業の特徴。これをもう１回きちんと見て、どこにどういう問題があって、今、何をしなければいけないのか。将来的に何を、どうするのか。そういう目標、目的をきちんと明確にした上で、じゃあどうやってそれを実現するのかというストーリーづくりをしないと、何か目の前にあることをいっぱい並べてあれやろうこれやろうというのは、非常にいいことばっかり出ているんですけども、実は具体案がなくて、非常にやりにくいなと。案はたくさんあるんですけどね。これ全部とてもできないと思うので。ちょっと焦点を絞る必要があるのかなという気がいたしました。

○会長　事務局の方で何か、今のご質問については一、二回の会議で皆さんが出された意見かなというふうに、私は理解しているんですけども。

今、委員の方で言われていのは、目標がないということですね、この目標向かってどういうふうに、そのあたりがこれから見つけようと言うのかなというふうに思いますけども、事務局から何かございますか。

○事務局　具体的にどんなことやっていくのかということなどにつきましては、皆さんのご意見をいただいて整理していくということになりますけれども、その目的ということに関しても、皆さんのご意見をいただきながら、改めて整理をさせていただきたいと考えています。

○委員　今のご意見は、第１回から毎回この話が出る中で、これが毎回上がってくるということは、どんな視点で意見をいったらいいのかちょっと見失うなと思いまして、これはもう決まっていることで、何かここに対してあんま突っ込んじゃいけないのか、どんなふうにとらえたらいいのかなっていうのをちょっと事務局の方にお伺いしたいなと。

○会長　事務局側のこれは１、２回をまとめた上でということかと思って、私もこれをいただいて少しどうかなと思ったのは、資料２、３が最新だと言われても、平成 27 年ということで、10 年前のものを参考に本当に今できるのかなという、その間コロナがあって、今現状があるというようなこともあるんで、これを資料としなさいっていうのも、最新だと言われたら、そうなってしまうんですが今、ＡＩの技術で、もっと分析力も高くなっているかなというふうな気もしますけども。ここで止まっていると、次に進みにくくなりますので、次に進んでよろしいでしょうか。それでは次追加の資料があるということですので事務局の方から、その追加の資料について説明をお願いいたします。

・事務局から追加資料の説明

○会長　ありがとうございます。それではここからは、今事務局からの提案のもとに、忌憚のない皆様ご意見を伺いしていきたいと思います。

○委員　やはり以前から京丹後市は非常に様々な強みがあるなと感じていたところですけれども、先ほどの追加資料２を拝見させていただきましても、本当に面白い中身が非常に多々あるなと改めて感じた次第です。ただ、なかなか域外にこういった情報がしっかり出ていってないなという気もすごく感じているところでございまして、まさに今回この循環と交流を活発化させ、循環と共創を促してというところが、まさに重要だなというふうに改めて感じたところでございまして、方向性として非常に適切なんじゃないかなというふうに思っております。

ただ一方で、先ほど来皆様からお話ありました通り、そもそも京丹後市の皆さんとしてどういうまちづくりにしていきたいのかといったところが、そういった意味でいうと、そこから議論がもしかしてスタートしてないのかなといったところもあるので、これまでの議論は議論としてそういったもう大きなビジョンと、皆さんの思いというか、ビジョンとのすり合わせといいますか、これをまた一からやり直すというわけにはいかないと思うので、そういったところとをすり合わせながら、うまく皆さんの納得いくようなものにしていけば、非常に良いものになるんじゃないかなというふうに考えたところでございます。

関経連としましても地域の課題解決につきまして、様々な取り組みをさせていただいております。具体的には舞鶴市さんとか兵庫県の丹波地域と連携協定結んで、関経連の会員企業にそちらに行っていただきながら、地域課題の解決に向けていろんなリソースの提供ですとか、何とかビジネスにするといった取り組みをしているところでございます。ぜひそういった取り組みですとか、あと本日もお越しでございますけども関西エリアの公設試験場と連携した取り組みもやっておりまして、そういったところを通じて地域の様々な技術を、他の地域の企業につなぐといったこともやらせていただいておりますので、そういった交流という観点から、ぜひまた引き続きご協力をさせていただきたいと思っております。実際これに非常に興味のある企業も多いんじゃないかなというふうに

思ったところでございます。ちょっと所感めいた話ですが以上でございます。

○委員　戦略についての資料に基本理念とあります。ヒト・モノ・技術価値が循環する経営力溢れるまちの実現と。私が言いたかったのはこのヒト・モノ・技術価値が循環するというのは、これはどうやってやるかという話であって目的は、経営力溢れるというか、要は稼ぐまちをつくりたい、という話だと思うんですよ。

稼ぐというと、非常に何か嫌らしく思えるからやわらかく、こうなっているのかなというふうに思いましたけども。もうストレートに言ってもいいと思うんですよ。やっぱり稼がなきゃだめなんですよ。だから稼ぐまちをどうやって作ろうかと。どうやったらが先に来ているんでね。これにどうしても縛られてしまうんで、そうじゃないんですと、やり方がいっぱいあるはずなんで。まず目的をそこにきちんと定めるべきだなと。そういうふうに思いました。

その下に持続的な経済成長という言葉も出ていますけどもこの辺が目的の中の１つかなと。いうふうにちょっと思っております。

目標の数字は若干物足りないところありますけどそれはそれとして、そういう意味で実態をね、今現在どうなってるのかと。ここから、要は目的、目標が出てくるだろうと思うんで、そこをもう１回わかりやすくまとめ直したほうがいいんじゃないかと思うんですよ。

追加資料の 1 の大動脈直結経済圏。それから災害拠点プロジェクトというのが挙がっています。これ非常に大事な話でありまして、道路の話もありますし、それから新幹線の話もありますし、それから航空の話もあるんで、全部ひっくるめてこれはぜひ早急に達成ができるようにしなきゃいけないと。それに加えて災害拠点プロジェクト。これ実は 2027 年が丹後大震災の 100 年目ですよね。まだ 100 年という見方もありますがもう 100 年なんです。最近、宮津の方で結構大きな活断層が見つかったと、そっちを重点的に見なきゃいけないみたいなことを京都府は言い出しているようですけども。確か来月の防災訓練は宮津で行われるらしいですが、ここだってもともと 100 年近く前に大きな地震があったわけで、やっぱりこの辺を 1 つの大きなプロジェクト、これは前向きではないかもわかりませんけども、やっぱり自分たちの命を守るね、そのプロジェクトとしてやる必要があるかなというふうには思っています。

非常に細かいことで申し訳ないですが、災害プロジェクトの中の 1 つの事業としてね。過去に、今でもそうですが、ＦＭたんごというローカルの放送があります。そこと連携をして情報をきちんと発信できるようにしようと。この仕組みは最近できたようですけども、交通、公共通信手段が遮断されてしまったときの情報収集、この辺の手段が京丹後市にも作ってあったはずですが、いつの間にか消滅しています。これ実はアマチュア無線を使って、公共、通信手段が遮断され

てしまったときに、小規模な無線機でそういうやりとりができる仕組みがあるんですけども。それがこの市役所にもクラブ局あってアンテナもあったはずですがいつの間にか消えています。その辺も含めて、もう 1 回ちゃん見直しする必要があるかなというふうに思っています。

○委員　どこから話したらいいかなと思ったんですけど、資料の作り方の問題で、多分誤解を与えているんじゃないかなと思うんです。皆さんの意見を整理しながらこの４つの視点とキーワードが整理できたっていうわけじゃなくて、元からあったものを意見に合わせて整理するとこういう資料になったということに過ぎないという理解なんですけど、事務局、それでよろしいですか。

そうですよね。多分、先に事務局というか当局としてやりたいことの大きな目標というか目的がほわっとあったんですよ。それを、１回目、２回目を通じながら皆さんに意見を出してもらって揉んでもらって意見を整理したものをもう１回フィードバックすると、大体うまく整理ができたなっていうのが今日の資料で、何となく資料の、作り方が、僕らに混乱をさせるような手順に見えてしまっているのかなというふうに思いました。

ですから、多分、１回目、２回目、今回となって、ようやく皆さんの言っていることと事務局の思いが通じ合ってんじゃないんでしょうかっていうのが今日のテーブル。ただし、その指標のところについて言うと、事業所の数が維持されることがいいなんてほとんど意味のない話で、新しくその事業所、産業とか仕事を起こす人たちもいらっしゃれば、個人で事業主っていう方も最近の流行では出てきているので、とらえ方が古い、固定的な古典的な指標にとらわれている。それは、産業連関表を持ち出していること自身がそうなんですけど、産業連関表は普通は何を見るかといったら経済波及効果の部分での、産業同士の間柄の連関性を見るに過ぎないので、データは古いものしかもともとない。ですからその傾向値を見てフレームを理解するってことはすごく大事なんですけど、今の時代何が一番大事かって言ったら、どの産業はどんな変化率を起こしているかっていうその変化率を見なきゃいけないんですよね。ですから微分積分でいうとこの数字で、スタティックなデータを見ていると目誤ってしまうと。何を見誤ったかというと、既存の事業体ベースの数字のボリュームが大きいからそこに引きずられてそれを大事にしましょうよってふうに見えちゃうわけですよね。

でも多分、事務局はそういうことを必ずしも言っているわけじゃなくて、イノベーションが最近行われてる部分が非常に産業界にインパクトを与えているという部分の理解をもうちょっと書いていただいたら、それぞれの産業の中に新しいイノベーションが入ってくることによって、付加価値が高まるというアプローチができると。その付加価値が高まるアプローチができるときに、まさに業際というか境界領域というんですけど、業際、例えば機械加工だったら加工に加えて、センシングというか、物のメジャーリングとか測る、こういうテクノロジーの領域と組み合わせることによって、ものすごく緻密な精巧な加工ができ

るようになりますよとか、そうやって差別化、ディファレンシエーションだとか、ニッチの世界感をどう切り開くかっていうマーケティングの手法があるので、そういう新しいものが織り込まれるので、そういう意味で、交流、新しい人たちとか自分たちの今までのグループ化された集団ではない違った集団の人たちと出会うことが交流だと捉えれば、ものすごく意味が大きいことなので、そういう場づくりや仕組みづくりをすることが、多分、出口戦略として求めなきゃいけないので、今日、追加資料２で市内の新しいプロジェクト、動きがあることをまとめていただいているので、これはこれでものすごく参考になる資料なんですが、これを本当に実現していくためには、そこにいろんな人たちが参加する、大きいプロジェクトにしていくことがいいんですかどうですかっていうのが、多分この場で議論する、意見交換されなければいけない事項かなと思います。

というのは、新しい時代をつくるときに新しい技術が使われたり新しいイノベーションが使われるんですけど、そこには必ず出会い、交流が生まれるんですね。交流が生まれるといい意味でプラスの摩擦、一緒にやってきましょうよっていうモチベーティブな部分と、ネガティブな負の感情が生まれることがあるんです。でも負の感情は、決して地域全体にとっての利益にならないんですよね。そういうものをプラスの思考で地域全体として盛り上げられるようにするためには、どういう仕組みとかどういう仕掛けを作ったらいいんですかということが話し合われることが、この場に求められることかなと。ここにお集まりのメンバーの人たちは、それぞれ違った分野で活躍している方々だと思いますので、普段日常的には、自分の取り組んでいることの最適化に最善を尽くしているんだと思うんですが、それを理解した上で、違った分野、違った取り組みをしてる人たちと掛け算なり足し算することによって、何が新しく生まれるかということを試行していただきたいなと思います。

まず行政当局の役割分担がどこまでか、おそらく大きなビジョンを作って、仕組みづくりを整えるのが市当局。ただ具体的に何をやるかっていうところについて言うと、民間の皆さんが取り組むことの方が断然多いわけなので、そこの部分を意識して取り組む必要があるのかなというふうに思うので、事務局にお願いしたいのは、例えば主な数値目標なので、あくまでも主なにすぎないので、これはどんどん違う数値目標を、皆さんの意見を入れて、立てられたらいいのかなあと思います。先ほど言いましたように、今個人事業主で新しいビジネスの取り組みをやられる人たちがたくさん増えていますし、必ずしも京丹後市に住民票を移さなくても、遠隔にいながらも京丹後市のプロジェクトに参加することも可能になっています。そういう意味では関係人口という切り口で、この地域での生産性を上げていただけるような共同作業ができる、チーミングっていうか、そういうプロジェクトを組成することができるんだったらば、そういうことをオープンという意味では、求められるような、ですから、外にどういうメッセージを出していくかっていうことについて言うと、極めて重要になってくるのかなっていうふうに思います。

○委員　意見として申し上げたいのが、この戦略とかいろいろ書いてありますけど、どこの地方都市に持っていっても多分こういうものが出てくるなっていう、京丹後市としてのここをやりたいっていう意図が見えてこないんですよね。だから、ここに書いてあることはもっともなんですけど、それを実際に全部できるのかな、予算はあるのかなとか、いろいろと疑問は湧いてきます。京丹後市をよくわかってらっしゃるその事務方の方達が一体、どっちに持っていきたのか、例えば人口をふやしたいのか、それとも大企業誘致したいのかスタートアップを連れて行きたいのか、どこに重点を置きたいのかという意見を聞きたいと思います。

いろいろ書いてありますけど、どこを重視していしたいのか、京丹後市はどういう方向に持って行きたいのかっていうのを、やっぱり地元の人に聞きたいなと思っています。京丹後市の強いところはどこなのか弱いところはどこなのかっていうのを、いろいろ書いてあるんですけど、言葉が上滑りしていて、本音というか生きた言葉で、そこをお聞きしたいなと思っています。

あとは、こういう形で会議やっても多分そんなになんか身のあるものが出てこないような気がするので、担当者の方と我々が侃々諤々ディスカッションできるような形の場を一度設けていただけないかなというのが、私の希望です。

前もちょっと言ったことあるんですけど、京丹後市の大きな特徴としては、一つは京都から大阪からすごく遠いっていうのは、逆張りでいいんじゃないかと私は思っていて、東京よりも遠いんですよね。だからそこを逆手にとって、何かできないか、それから去年末に気づいたんですけど、ここ長寿が日本中で飛び抜けて優れているんですよね、新書が出るぐらいで。それはすごい強みだと思うので、そういう強みを生かした施策を、一緒に考えていければなと思っています。以上でございます。

○委員　私も数値目標については、この現状維持っていうのが本当に正しいのかなというふうには思っています。実際高齢の織物産業の方が多いと思うので、それを維持していくことにどれだけの意味があるのかなっていうふうに思うので、そこはもうちょっと考えたほうがいいのかなっていう。京丹後市が社長がすごく多い町っていうのを押したいんでしょうけど、実際来てみてそこまで活気ある市でもないのに、そこ押す意味がよくわからないなっていう。もうちょっと身の丈に合った目標にしたほうがいいんじゃないかなっていうふうには思いました。

若い方のスタートアップなんかもぜひ応援したいんですけど、副業・サイドビジネスなんかの支援ももうちょっとあったり、そういう人たちの交流の場や好循環なんかも、力が入れてもらえると嬉しいかなと。小さな仕事をしているものからするとそういった面をもうちょっと重点的に見てもらえると嬉しいかなと思いました。

○委員　僕も最初事業者数のところは気にはなったところで、皆さんおっしゃる

通り、機屋の件数が多かったっていうのがここにあるのかなとは前々から思っていて、残念ながら減っていく一方というところでなかなか歯止めがかからないわけですけども、そういった中で確かにこの数字っていうのはどうかなとは思いました。その中でも先ほどから話があったように、僕らの組合としても地場産業として、今まで織物業ということで、丹後にはなくてはならない産業の１つだと思っておりますけれど、その中でやっぱ稼ぐっていうところは、地域を活性化させていく中では非常に大事かなと思っていて、組合としてもああいう産業観光に向けた取り組みなんかもやり始めていますし、残念ながら、織物の製造っていうのはどんどん減っていっちゃいますけども、ただ全国的に見てもここは絹の、和装の産地からいうと圧倒的と言ってもいいぐらいの産地規模ですし、その中でもやっぱり、丹後というところは、白生地、帯の製造拠点として、和装の要の産地になっていますので、この丹後がこけちゃうと本当に日本の和装、ひいては文化そのものに響いてくるっていうことにも繋がってきますのでそこはしっかり守っていく。その中でも稼ぐというとこが、続けていこうと思うと必要なってくると思うので、織物業として稼ぐというところがどれだけ力強くできて、地域の活性化に繋がればなと思って取り組んでいるとこでもありますので、我々としましてはこれからも、しっかりと続けて守っていかんとあかんという使命の中でやっているところでもあります。

○委員　追加資料の２を見せていただいて、なるほどと思って、それぞれに興味があったり思うことがあるんですけれども。オープンファクトリーがあったりとか観光の方は産業だったり文化であったり、歴史だったりそういうものを含めて、今、横断というか、１つの商品だったりを作っていく部分かなと思っていまして、今まで広報を一生懸命やってきたんですけれども、それでもまだまだ広報が足りないというか、域外に情報が本当に行っていないというか、今回世界長寿サミットがありましたことは、初めてのことで大変だったかと思うんですけれども、大きなきっかけをいただいたので、これをきっかけにしてどんどん機械金属であったり織物であったり、それから歴史文化、銚子山古墳の整備がされて、思わぬ展開でツアーがあっという間に埋まったりとかいろんな興味を持っておられる方が、分野がありますので、そこをどうデザインして整理していくかっていうところが、重要かなって思っています。

今、京丹後市で複合施設の都市拠点の話があって、子育て支援の施設を今作ろうとしていますけれど、これ大きな意味があることで、生きるというか、まず産業もですけれど、今お米の問題がいろいろとある中で、ここへなぜ農業がないのかなっていうのが、素朴な疑問です。生きるというか、食べることはとても大事なことで今それを生かして女将さん会であったり、長寿食であったりいろいろとやっているんですけど、お米の問題とか、環境の問題とか丹後の魅力、そこが一番肝心なところなのかなと思って、そこのところがないのが、なぜかなあと思います。

若い方たちの中の 100 人会議に参加をさせていただくと、いろんな若い人た

ち、頑張っている人たちがいて、そこでの交流会というのは面白いものなんです。そういう場面が、いろんな理解、化学変化を起こしていくのかなと思って、そういう場面がたくさんあれば、もっともっといろんなことができるのかなって思っております。

宿泊業としては、資料２の３番にあることはもう随分前から私も思い続けてきたところで、これをどう形にしていくか、日々、情報を収集したいような思いでおります。

いっぱい思うことはあるんですけれども、この１から８はよくまとめていただいているなと思います。

今年の夏、マスクの面白いものをかけておられる友達がいまして、それ縮緬で作ったらいいんじゃないのっていう話をしていたんですけど、できることはなんでも面白おかしくやってみるべきだと思いますし、まだまだ、整理していけば可能性はあるんですけれども、農業というか生きることに対して、食料のところを真剣に考えていただきたいのかなっていうところは、この中にないですけれども、観光も関連食べることが大事ですので、その部分の意見とさせていただきます。

○委員　エムズカード会ではポイントを発行してそのポイントでイベントしたり、お客さんにちょっとお得感を持ってもらったりということをやっています。大店舗法の規制緩和の影響などでシャッター通り商店街が増えだしてきまして、そうした急な変化にどう対応するのかということで、みんな知恵を出しながらいろんなイベントをしてきて、地域の特色を出したりしてきたんですけれども、その時に頑張ってこられた方々が、そろそろ引退したいという年齢に近づいていまして、後継者不足という問題が今起こっております。そこを何とかといっても、後継者不足は何ともならないんですけど、その方々にはできるだけ、今日で終わりという日までは一生懸命頑張っていただこうと思って、この会も手助けをしているんです。また、そうではなくて、これから頑張っていこうという方々もおられまして、その方々をどういうふうに京丹後の中で光らせていったらいいのかなあということを考えています。ポイント事業をやっているので、京丹後市にもデジタルポイントというものがありまして、予算が非常にある、いろいろ付けていただきやすい部署なので、せっかくなのでそのデジタルポイントをベースにしてもらってそこに、エムズカード会も乗っかって、それぞれが例えば、旅館組合さんが乗っかって、旅館組合さんもポイントを発行して、お客さんに対して、京丹後の中でそのポイントを使って帰ってもらうとか、次に京丹後に来るきっかけにしてもらうとか、そういうようなことのベースになるようになって欲しいんです。

いつまでたってもエムズカード会とデジタルポイントが競争し合っているのではなくて、デジタルポイントにはＯＳになってもらって、僕らはアプリケーションとして、その上で、自分たちのやりたいことをやっていくような、また、旅館組合さんなどがいろんなアプリケーションをその上に乗せて、そのアプリ

ケーション同士がまたひっついて仕事をして、新しいものを生み出していくというような、これから光っていく人たちの舞台を何とか作りたいなと思っております。

あと、観光の面で言うと、よそほども特別な何かが、ちょっと思い当たらないんですけど、ただ、それはつくり出していくものなのか、発見していくものなのかちょっとよくわからないんです。写真店をやっているんですけれども、お客さんから、碇高原から立山連峰が見えるという情報をいただきました。僕も今まで知らなくて、皆さん、聞いたことあります。そういうことも1つの、まだ知らないこととして、発見だったり、探索すればあるのか、そういうものを探していけばいいのかというのをちょっと考えながら、聞かせていただいていました。

○委員　私は京丹後市の40件ぐらいの若手の農家さんと連携して、農産物の卸とか加工品の製造をしている立場として、農業分野に関してこの追加資料の中であまりなかったんでちょっと寂しく思ってたんですが、農業と関係する部分としてブランド価値を高めていくなどになるのかと思います。その部分で、京丹後市の農産物は知名度が低いとずっと言われていて、徐々には広がっているかと思うんですが、まだ低い状況です。全国の大手スーパーでどんと並ぶと、それでもう認知度は広がると思うんですけど、そもそも、大規模な産地ではないので、比較的少量多品目で皆さん作られているような産地で、それは不可能だと思うんです。

今後も辞めていかれる方も増えますし、その分を若手が頑張って規模を大きくしたとしても莫大に生産量が上がることはなかなかないかと思うので、大手で売るような認知度の上げ方は難しいと思うので、そうであれば追加資料にあるように、長寿などといった部分で関連付けて、量よりも質で発信していくことが重要なんじゃないかなあと思っております。

やっぱり長寿っていうと食が関係して、それを作っている農産物は非常に関連してくると思うので、そういうのでブランド品をつくったりしながら、農業も活性化できるような方向性でいければいいんじゃないかなあと思っております。

私もいろんな企業さんと、お話をしたりする機会がありまして、農業の分野って昔よりも、いろんな異業種の会社さんが注目をされていまして、私も食品関係だけではなくって、化粧品の会社であったり、スポーツの会社あったりといろんなところとコラボしながら、事業を進めているんですが、今まで食品だけにこだわっていきたものを目線を広げていろんな異業種での交流ができる場を作っていくのも、今後、ブランドを作っていくアイディアになっていくんじゃないかなと思います。

○委員　今日の資料を多分100％理解できてなくて、この、このメンバーであったり、これを今後行政の職員さんたちにおろしていくときに、機能しないのではないかっていう、不安が今日聞いていてあったんすね。イメージできるビジョンを、こういうとこを目指しているんだなという絵が描けると、例えばなんですけ

ど、強すぎるまち京丹後みたいなイメージが例えばあったとして、人々からこう京丹後ってそういうとこめっちゃ強いよなっていう声が、ついついこぼれ出すみたいなイメージをつくれないかなと思ったんすよね。昔で言うとガチャ万時代っていうのはもう最強状態だと思うんですよね。もう京丹後やばいな、強いなと。例えばですけど、今後も織物であったり機械金属であったりその他のプラスチックも強いって言われているらしいんですけども、産業で稼いでいる。ものづくりのクオリティがすごく高くて職人技があって、丹後だからできる、遠いけど丹後だからできるから頼む、丹後だから輸出できるとか、そういう産業で稼いでいるとか。

あとは、面白いプレーヤーがめっちゃいると、会いたいと思える人がいて、なんか丹後って強いよなっていうのがこぼれ出すみたいな。あとは食料とか、ご飯はもう言わずもがなめっちゃおいしいんすけど、食料とか物資も潤沢に生産できる、されているっていう、強いわなというのが出たり。あとは、僕がしたい資源化ですね、地域にある廃棄物がちゃんとエネルギーとか資源とかに変わって、地域内で生産されて地域内で使われているという状態。だから災害とかあっても、例えば、地域で発生しているプラスチック廃棄物から燃料ができていたり、ご存じの方もいると思うんですけど、今すでに京丹後市内の事業者で天ぷら油からバイオディーゼル燃料を作っています。この天ぷら油を集める能力が異常に高いというところで、もう、全国のバイオディーゼル協会が京丹後市よって言っているんすよね。この間教えてもらったんですけど、人口で言うと 30 倍ある京都市と天ぷら油を回収している量が一緒らしいんですよ。人口 30 倍ですけど産業とか飲食店とか宿泊業とか、もっともっと多いわけで、天ぷら油の利用量とかもはるかに多いはずなのに、京丹後市が同じぐらい天ぷら油を集められているんですよ。これすごいことなんですよね。それを今どんどん、バイオディーゼル燃料に変えていっていていると。天ぷら油を回収しに行っている車にもそれが使われているっていう状況が生まれているんで、もうトスが上がっているんですね。すでに京丹後市が強いっていう状態でトスが上がっているんでそういうトスを発見したらすぐさまアタックするっていうのが、行政のやるべきことではないかな。これを何かこう、ビジョンを描いて達成するために、こういう事業とかプロジェクトがあって、それを数字に落としたらこうだね、ＫＰＩに落としたらこうだね、だからこれを目標達成していこうっていう順序だとすごくわかりやすいので、今日言いたかったことは、まだ時間かかると思うんですけど、文字だけプラス、明確な、この会議でビジョンを起こしたいんですよね。こういう地域が広がっているんだっていう絵を描きたいんですよねっていうのが、今日感じたことです。

○委員　京丹後の魅力が多いからこそなのか、課題が絞りきれてないという感はありますが、その魅力をどういうふうに絞っていくのか、何と組み合わせていくかっていうことだと思います。私は生まれが神奈川の鎌倉市で 10 年前にこちらに来ました。京丹後って遠いっていうイメージは、確かに東京からは遠いってイメージはあるんですけども、10 年前に比べたらもう大分近くなって、京都市内

からなら車で２時間を切ってしまうっていうところもあります。鎌倉市は東京から１時間半ぐらいで行けるとは思うんですけど渋滞が非常に多いので、こちらに関して言えば、お盆とか特定期を除けばスムーズにいけるので、遠さっていうのはあまり感じてないかなと私は思っています。

何に注力するかっていうところであれば、私の仕事柄、建築や不動産をやっているのでどうしても観光とか、あとは食ですね。京丹後に来たときに、お米の美味しさに一番びっくりしたのと、魚の種類とか、そういったことに本当に感動したのを今でも鮮明に覚えております。

また、建築の分野で言うと空き家をリノベーションしてうちも宿泊施設をやっていますけども、築 100 年を超えるような素晴らしい、いわゆる古民家があるんですね。それをなるべく壊さず生かしてやっていくというふうにうちも取り組んでおります。インバウンドとか空き家を活用した地域分散型ホテルっていうのは非常によい取り組みだと思っています。ただ一言でインバウンドっと言っても、どこの国の方をターゲットとして呼ぶのか、アジアの方を呼ぶのか欧米の方を呼ぶのか、そういったものをきちっと絞ってやっていかなきゃいけないと思います。観光に関して、インバウンドに限らずいろいろな取り組みをされていて、非常にポテンシャルの高いまちだとずっと思っておりますが、どういうふうにこれから発信するか、具体的に動いていくのかっていうところが、この会議からまたそういう答えが出てくればいいなというふうに思いますし、そういう取り組みをしていけば、若者も、面白い、京丹後にまた戻ってこようというふうなまちに、自然とそういう流れができてくると思いますので、私自身も学んで実践するというふうにしていきたいと思っています。

○委員　ここに住んでいる私たち委員が京丹後市をどんなまちにしていきたいのかみたいなところを、私なりにお伝えできたらなと思っているんですけど。先輩方がおっしゃっていたように稼ぐっていうのはすごい大事なキーワードかなと思っている中で、ちょっと１個気になっているのが、無限の経済成長とか人口が減らないっていうことはもうないと思うんですよね。日本の状況を見ても、世界の状況を見ても、人口減少は必ず起こると。人口が減ってく中で、この町で暮らす人がハッピーに生きられるように、どのぐらいの経済規模でどのくらい稼ぐことが必要なのか、税収はどのくらい必要でそのために、どのくらいの生産規模が必要なのかみたいなところも、ちゃんと考えていきたいなと個人的には思っています。

あまり、無理な現状維持とか、無理な拡大を目指してしまうと、むちゃな税金の使われ方とか市民がすごく頑張らなくちゃいけない状況になって、今持っている良さみたいなのが失われてしまわないかなといったことがすごく気になっているので、今後人口規模も経済規模も含めて、どんな町がそれぞれがハッピーなのかみたいなのは、考え続けていきたいテーマだなというふうに思いました。

ちょっと違う観点からで、丹後は東京からすごく遠いってお話ありましたけど、私は神奈川出身でずっと東京で働いていて、二拠点をしていたこともあるの

で、遠いなと正直思います。車だと６時間半で、電車で来ると七、八時間ぐらいかかると。逆に、この逆張りで遠いからこそ個性的な人がここには住んでいて、プライドを持って丹後で暮らしているからこそ、丹後に対してすごい愛のある人が多いんじゃないかなというふうに思っていて、何かそこは、逆張りで押せるポイントなんじゃないかなとも思っています。

あと稼ぐのところですごい大事だなと思ってるのは、京丹後市はどうしても給与水準が低くて、ＵＩターンされてくる方が働く先を見つけられない、自分の生活したいレベルに合った給与水準のところが見つからないっていう話をいただいたりとか、企業さんの方からも給料があまり出せないから人が取れないみたいな話もちらほら聞いていたりして、その給与水準を上げていくためにもある程度稼いでいくっていうことを念頭に置くのは大事なんじゃないかなというふうに思っています。

あと喧々諤々な議論をされるのであれば私もぜひ参加させてもらいたいなと。まだよそ者ばかものですけれども、勉強させていただきたいなと思っております。

○委員　今回の資料全部拝見をさせていただいて、キーワードで出されている高付加価値化。私も市外の者なのでよそ者ではありますけれども、産業、文化、歴史、食と健康など、本当に価値が幾つもある、そういう地方都市ということでは、魅力がいっぱいある中で、一、二回の会議の皆様の課題という中で、高付加価値化をしていかないといけないであるとか、集積していかないといけないとか、人は減っていくのでっていうことを、もうすごくおっしゃってると思っています。

銀行の立場からいくと、健康で長生きされている方は京丹後市は全国で本当に有数だと思うんですけれども、事業者としてはやはり廃業が進んでいます。これは京丹後市に限らず全国でそうですけれども、まさに今、事業者が倒産されるよりも廃業のスピードがものすごく速いということを感じている中で、すでにぴかっと光る産業があるという意味でいくと、それぞれの事業者様の、いわゆるもうける力をより高くする。人は減っていくので、人の力を使う部分と、機械や最先端の技術を使う部分で、高付加価値をしていくっていうこの方向性、大変、その通りだと思っています。

その中で、皆様もいろんな意見を仰ってたんですが、主たる指標というのが、事業所を減らさないとか人を減らさないとかっていうのは、高付加価値化と必然でやってくる人口減少でいくと、土台無茶な目標っていう意味だと思っておりまして、そういう意味でいくと、このスピード感を含めて、何をしていくのかということだと思っておりますので、地域の方が夢と希望を持って、この地でお仕事や生活をしていけるということを含めると、この数字の目標ではなく、やはり高付加価値化というようなところに焦点当てた目標数値を皆さんと共有するのがいいんじゃないのかなというふうに、思っているところです。

もちろんエリアを越えて、交流人口を増やしていくとか関係人口を増やして

いくとかっていうことは、当然ながらあると思いますし、この経済戦略自体は、当面先５年程度ということだと思ってはいるんですけれども。我々も仕事の中で、今、もっとＡＩを使えというふうに言われています。決して、ＡＩが私たちをすべて幸せにするということではないと思っているんですが、今、日本国内でも海外でもＡＩの技術に莫大な投資が進められている中で、10 年後 20 年後、本当に回帰してくるのは何かというと人間らしい生活、もはや土をいじるであるとか、豊かな時間を過ごすっていうところが、ものすごく憧れになっていくんではないかというふうに言われていて、そういう意味でいくと、そういうものもよその地域よりもより多くある京丹後のエリアの大事にしていくべきものっていうのは、やっぱりあるんじゃないかなというふうに感じている次第です。

そういう意味では、人口は必ず減っていく、もうすでに京丹後市も減っていると思いますけど、京都市も減っていますし、間違いなく減ってくる。ここに危機を感じながら、いかに一つ一つの今の事業者さんの技術と、新たに創業される方とのコラボをしながら、稼ぐ力というものを、京丹後市域内を超えて上げていくかということ、そういう、戦略を作っていくのがいいのかなっていうふうに感じました。

○委員　今回いただいたプロジェクト案も含めて、これ本当に京丹後市の戦略かなっていうふうに感じたというのが第一印象です。全部大事なことが書かれているんですけども、京丹後市の特色があまり出てないなと思いました。どうしてかなと思っていたんですけれども、資料１の３ページの４つの視点のまとめ方が変わるとすごく見やすくなるのかなというふうに思っています。この大事な４つの視点で、すでに京丹後市が持っているものは何ですか。それから、今、京丹後市でこの視点で言うと勢いがあるものなんですか。それから、仮に今後やっていく上で、ここを育てていきたいものは何ですか、というような視点で、この中にその要素が入っていると、追加資料とかで示していただいていたプロジェクト案が、既にこんなものがあるからこのプロジェクトをしますとか、こういうところに勢いがあるからこれを伸ばしたいですとか、もしくはこのプロジェクトをするためにはこんなことをやらないといけませんというところが明確になるのかなというふうに思います。

これをまとめていくと、これもいいな、あれもいいな、こんなこともしないとだめだなっていうふうに、いっぱい盛りだくさんになってしまって、私どもが見ても判断がつきかねるような、まとまり切らない内容になっているのかなというふうに思いますので、既に持っている資産とかそこら辺りの視点でこの４つの視点を一度まとめていただきたいなと思います。

○オブザーバー　皆さんからあったように１回目、２回目の検討をされた後に、この３回目のところで、確かに、ちょっと絞りにくい、皆さんの意見を伺っていても、様々な意見が出てきて 1 つのことを議論なかなかできないんだなっていう

のが感想です。ただ、伺っている中でもやはり、先を見据えた中で、若者、地元におられる方がわくわくするような提案っていうのも中にはあったと思うんです。そういうところを企業さんの力でどのようにさらに展開していくか。前にも少し話したかもしれませんけども、京都府も京都産業２１、京丹後市と一緒に地域の新産業創出というところで検討を昨年から始めて、宇宙関連ビジネスの方だと機械金属業、織物業、また、もしかすると宇宙食というようなことを含めて農業も含めた分野に広げて、いろいろといけるんじゃないかというのを、スタートしたところです。そういうような視点もあるなっていうことも、知っていただいて、今後の新たな戦略づくりがうまく行くといいなというふうに思ってます。

○オブザーバー　資料を見ていましてすごく綺麗にいろんなことをまとめておられて、一見すごく上手くまとまっていると思いながら、でも、皆さんから発言がありますように何か焦点が絞り切れていないような、京丹後市らしく、独自性みたいなものがちょっと見られないような、そんなまとめになってるような気がしますので、そこをもう少しクリアに今後していければ、いいものができ上がるのかなあというふうに思いました。

それと、京丹後市はやっぱり若者とか、人が出て行って戻ってこないとか、そういうところが根本の非常に大きな課題であると思いますので、とにかく魅力あるまちづくりといいますか、若者が出ていかない、そして出て行っても戻ってくるという、そんなまちにしていきたいと思っています。私ども織金センターでも小学生とか中学生にセンターの見学の受け入れや出前授業をやったり、高校生には実際の機械を使った実習事業やったり、大学生に対してはインターンシップを受け入れたり、課題を一緒に解決するプログラムに参加していただいたり、そんな取り組みをやって織物業や機械金属業、地域を支える産業についての認知度を上げていって、子供の頃から興味を持っていただくような、そんなことをやっております。京丹後市のオープンファクトリーツアーが、10 月３日から５日に計画をされているとお伺いしていますけども、オープンファクトリーツアーとも連携させていただいて、私ども地域産業の認知度を上げるという、そんな目的もあるんですけど、織金センターの 120 周年の記念事業ということで、10 月４日と５日に、のオープンファクトリーツアーと連携させていただいて、地域産業とこれを支える織金センターを広く知っていただくような、子供から大人まで参加していただいて、広く知っていただくような、そんなイベントを企画しております。やはり、こういうことをやりながら、丹後の魅力、地域産業の認知度を上げていきたいと考えております。

○オブザーバー　この戦略、これからまたブラッシュアップされていかれると思いますけれども、最終的にはやはり地元の方の理解、地元の認知度を上げていく必要があると思います。これからお願いしたいのは先ほどからお話に出ていましたが 100 人会議のような本当に力がある人が集まっておられるような、地元の情報発信拠点になるような組織がしっかりとこの戦略をご理解をされて、地

元の方にも定着するような形で、しっかり浸透を図っていただけるような、そういった取り組みを期待したいと思っております。

○委員　すみません、一人一人に順番に意見を言いましても議論は深まらないので、もしこれ以上の何か深まったディスカッションをしたいんであれば、分科会を設定していただけませんか。各テーマごとに、少人数で議論した方が知恵が出てくると思います。私はスタートアップ関連のところを期待されて委員をお願いされたと思うので、この分野であれば、京都の他のＶＣとか誘っていくらでもディスカッションする場を設けますので、ご検討いただければと思います。

○会長　この中で私、これを読ませていただいて、どうしても必要だなと思っていた観点が、日本がすごく遅れている科学技術やら、いろんなそういう面での人材育成の面で、我々、市を挙げて人材育成にはものすごく力を入れなきゃいけないかなというふうにすごく思っています。時間が足りなくなるので、まだまだ言いたいことはたくさんあるんですけども、このあたりで事務局の方にお返しして、少しまとめていただいたらというふうに思います。

○事務局　委員の皆様も長時間にわたりご議論いただき、誠にありがとうございました。ご提案のありました分科会の方も検討をさせていただきたいと考えております。それでは以上をもちまして、京丹後市新経済戦略推進会議を閉会とさせていただきます。次回の会議につきましては、分科会も含めましてなるべく早い段階で日程調整をさせていただきまして、皆様にご案内をさせていただければと思っております。委員の皆様、長時間にわたりましてご議論いただきましてありがとうございました。

（以上をもって閉会）